

April 28, 2026

【前日の為替概況】ユーロドル、1.17ドル半ばでは伸び悩む ドル円は小幅に反発

27日のニューヨーク外国為替市場でユーロドルはほぼ横ばい。終値は1.1721ドルと前営業日NY終値(1.1722ドル)と比べて0.0001ドル程度のユーロ安水準だった。前週末に米国とイランによる対面協議が見送られたことで、イラン情勢を巡る不透明感が高まり、週明け早朝取引では一時1.1688ドルと日通し安値をつけた。ただ、「イランは米国に対し、核開発問題を先送りしたうえで、米国がイランの港湾を出入りする船舶を対象に封鎖しているホルムズ海峡の開放を条件に、戦闘終結で合意する案を提示した」との報道が伝わると、WTI原油先物が1バレル=94.59ドル前後まで下落。「有事のドル買い」を巻き戻す動きが広がり、21時30分前に一時1.1755ドルと日通し高値を更新した。

もっとも、買い一巡後は再び上値が重くなった。WTI原油先物が97.67ドル前後まで持ち直し、米長期金利の指標である米10年債利回りが4.34%台まで上昇したことが相場の重しとなり、4時前に1.1719ドル付近まで押し戻された。米国とイランの交渉を巡る不透明感は根強く、積極的な買いが入りにくい面もあった。

ドル円は小反発。終値は159.42円と前営業日NY終値(159.38円)と比べて4銭程度のドル高水準だった。週明け早朝取引では一時159.68円まで値を上げたものの、前週末の高値159.84円が目先レジスタンスとして意識されると徐々に上値が重くなった。イランが核交渉を先送りするとのニュースがドル売りを誘った面もあり、日本時間夕刻に一時159.10円と日通し安値を更新した。

ただ、米国とイランの交渉を巡る不透明感が根強い中、原油先物相場の持ち直しや米金利上昇に伴うドル買いが強まると、159.46円付近まで下値を切り上げた。

ユーロ円はほぼ横ばい。終値は186.87円と前営業日NY終値(186.86円)と比べて1銭程度のユーロ高水準。NYの取引時間帯に限れば、186円台後半を中心とした狭い範囲でのみ合いに終始した。明日の日銀金融政策決定会合の結果公表を前に、ドル円やクロス円は動きづらい面があったようだ。

【本日の東京為替見通し】据え置き見込みの日銀会合、タカ派の数を確認 総裁の会見にも注目

本日の東京外国為替市場のドル円は、トランプ米大統領のイランの暫定合意案に対する見解に警戒しながら、金融政策の現状維持がほぼ確実視されている日銀金融政策決定会合での利上げ主張の委員数を確認。その後は、15時30分からの植田日銀総裁の記者会見に注目することになる。

昨日、イランはホルムズ海峡再開と引き換えに米国も海上封鎖を解除するという暫定合意と、核開発計画を巡る交渉を先送りする条件を提案した。トランプ米大統領は、イランの提案を協議するため国家安全保障担当の高官らとの会合を開き、まもなく言及するとのことで警戒しておきたい。

本日発表される日銀金融政策決定会合の金融政策は、現状維持がほぼ確実視されており、注目ポイントは、植田総裁の据え置き提案に対して、何名の委員が反対して利上げを主張するのか、そして、植田総裁の6月会合に向けた見解となる。タカ派の高田日銀審議委員は利上げを支持し、田村日銀審議委員も利上げを支持する可能性があることで、7対2での据え置きが見込まれるが、もう1名が利上げを主張して、6対3になれば、「タカ派的な据え置き」となり、ドル円の上値は抑えられることになる。

2024年4月26日(金曜日)の日銀金融政策決定会合では、金融政策の現状維持が決定され、声明文からは「現時点の経済・物価見通しを前提にすれば、当面、緩和的な金融環境が継続すると考えている」が削除された。その後の植田総裁の会見では、「金融政策は為替レートを対象にしていない」との立場を明確にし、「円安で基調的な物価上昇率に無視できない影響が発生すれば政策の判断材料になる」と言及。一方、最近の円安について「基調的な物価上昇率への大きな影響はないと判断した」と述べたことで、ドル円は、円安阻止のために日本銀行が早期に追加利上げを行うとの観測が後退し、158円台まで上昇した。

4月29日(月曜日)、東京市場が休場だったアジア市場で、ドル円は160.17円まで上昇したが、13時過ぎに本邦通貨当局による覆面でのドル売り・円買い介入(5兆9185億円※過去最大)が断行され、154円台まで反落した。

片山財務相は、2024年の連休中の為替介入には効果があったと評価した上で「フリーハンドで投機的な動きに断固たる措置をとる」「大型連休中を含めた米国との緊密な連携」に言及しており、2024年4月末の再現には警戒しておきたい。

【本日の重要指標】 ※時刻表示は日本時間

<国内>

- 08:30 ◎ 3月完全失業率（予想：2.6%）
- 08:30 ◎ 3月有効求人倍率（予想：1.19倍）
- 未定 ☆ 日銀金融政策決定会合、終了後政策金利発表（予想：0.75%で据え置き）
- 未定 ◎ 経済・物価情勢の展望（4月、基本的見解）
- 15:30 ☆ 植田和男日銀総裁、定例記者会見

<海外>

- 19:30 ◎ 3月インド鉱工業生産（予想：前年比2.7%）
- 22:00 ◇ 2月米住宅価格指数（予想：前月比0.1%）
- 22:00 ◎ 2月米ケース・シラー住宅価格指数（予想：前年比1.1%）
- 23:00 ◎ 4月米リッチモンド連銀製造業景気指数（予想：1）
- 23:00 ◎ 4月米消費者信頼感指数（予想：89.0）
- 29日 02:00 ◎ 米財務省、7年債入札
- 米連邦公開市場委員会（FOMC）1日目

※「予想」は特に記載のない限り市場予想平均を表す。▲はマイナス。

※重要度、高は☆、中は◎、低◇とする。

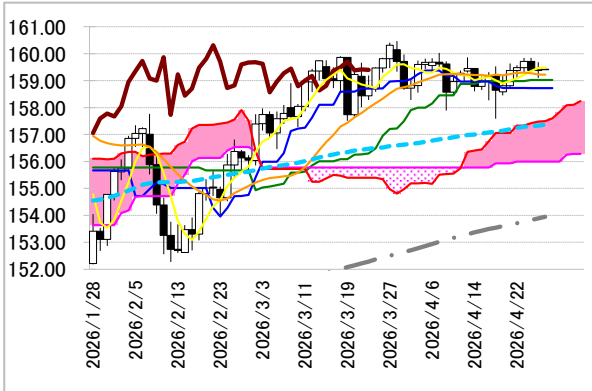
※指標などの発表予定・時刻は予告なく変更になる場合がありますので、ご了承ください。

【前日までの要人発言】

27 日の金融市場では、要人の発言は特になかった。

※時間は日本時間

〔日足一目均衡表分析〕

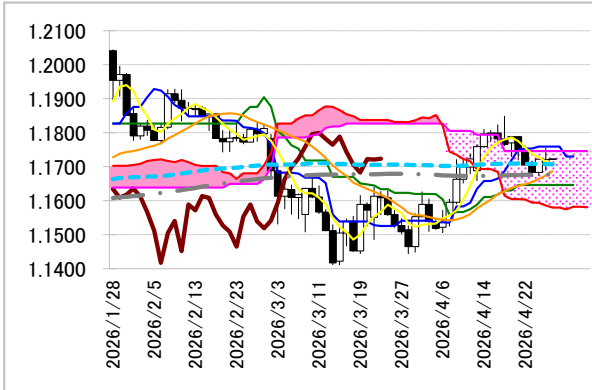


<ドル円＝一目・基準線が依然として下値めどに>

小陽線引け。週明けは買い先行も 159.70 円の手前で頭を抑えられた。ただ下押しも 159.10 円までと日足一目・基準線が支持水準として働き、下値を切り上げて終えている。

基準線は本日も 159.03 円に位置し、下値めどとして意識される。同線を下抜けた場合は、158.70 円台の転換線が次の攻防の分岐点。上値は、7 日高値 160.03 円が抵抗として機能するかが注視される。

レジスタンス 1	160.03(4/7 高値)
前日終値	159.42
サポート 1	159.03(日足一目均衡表・基準線)
サポート 2	158.72(日足一目均衡表・転換線)

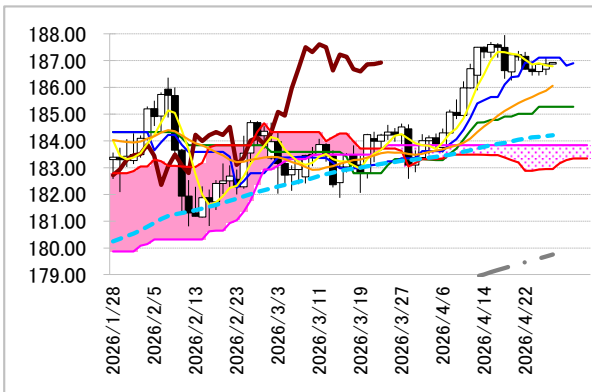


<ユーロドル＝一目・転換線が抵抗となるかに注目>

小陽線引け。売りが先行も 1.1690 ドル割れでは支えられ、1.17 ドル台を回復。日足一目・雲を上抜ける場面はあったが、転換線には届かず再び雲の中で上値を切り下げた。

転換線は 1.1759 ドルに控え、同水準が抵抗水準として働くかが注目。上抜けるようだと、1.1790 ドル台の 21 日高値を目指す展開か。一目・雲の中で伸び悩むようであれば、200 日線の下に位置する 23 日安値が支持として意識されるか。

レジスタンス 1	1.1791(4/21 高値)
前日終値	1.1721
サポート 1	1.1669(4/23 安値)

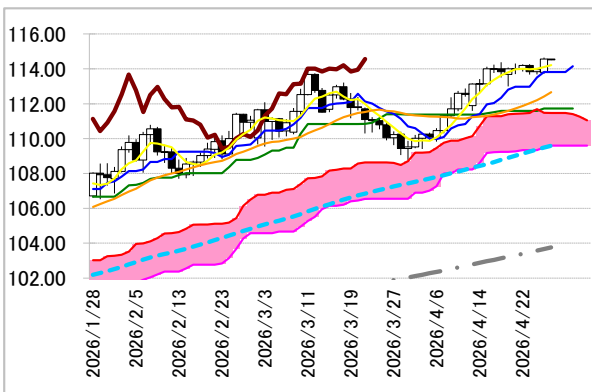


<ユーロ円＝187 円前半に控える転換線が攻防の分岐点>

陽線引け。186 円半ばをこの日の下値として、3 営業日ぶりに 187 円台乗せに成功。もっとも、日足一目・転換線が位置する 187.11 円では上値を抑えられた。

転換線は本日も 187.11 円に位置し、攻防の分岐点として意識される。超えるようだと、21 日高値 187.36 円が次の上値めど。逆に同線が重しとなれば、186 円超えまで上昇してきた 21 日線が目先の下値めどと想定される。

レジスタンス 1	187.36(4/21 高値)
前日終値	186.87
サポート 1	186.06(21 日移動平均線)



<豪ドル円＝年初来高値を更新、レンジを上方向にシフト>

陽線引け。113 円後半から 114 円台を回復すると、17 日につけた 114.38 円を上回った。114.64 円まで年初来高値を更新し、引け水準も 114 円半ばと底堅さを維持した。

調整を挟みながらも、レンジを上方向にシフトしてきた。113.80 円台まで上昇してきた日足一目・転換線は、昨日高値を上抜けると水準を切り上げる見込み。同線から 23 日安値までを支持帯に押し目買いスタンス。

レジスタンス 1	115.23(ピボット・レジスタンス 2)
前日終値	114.56
サポート 1	113.66(4/23 安値)

